

知の集積による産学連携推進事業 [拡充]

【200(113)百万円】

対策のポイント

「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みの検討やコーディネーターによる産学の事業化研究や異分野連携研究を支援します。

<背景/課題>

- ・農林水産・食品産業の成長産業化を加速化するためには、民間からの研究開発投資を促進するとともに、他分野での研究成果を早急に取り込むことが必要となっています。
- ・このため、民間企業等による研究成果を事業化につなげる研究開発や異分野の革新的な技術を農林水産・食品分野へ活用する研究開発の促進が必要です。
- ・これらの研究開発を支援するためには、生産現場や民間のニーズ、研究機関の持つ技術シーズを収集・把握し、同分野の高度な知見を有するコーディネーターを全国に配置する必要があります。
- ・さらに、企業、大学等の知を集積させたオランダのフードバレーを参考とし、我が国においても、次々に新たな成果を生み出す連鎖の仕組みを構築するため、「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みを検討する必要があります。

政策目標

- 「知の集積」に係る基本構想の策定
- 研究計画の作成支援を行った研究課題数に対して、研究課題の終了時において優れた研究成果や実用化に繋がると評価される課題の割合が80%以上

<主な内容>

1. 攻めの農林水産業を支える知の集積調査推進事業

民間企業、独立行政法人、大学等が持つ「知」を結集させた産学連携の更なる強化に向けた新たな仕組みを検討するとともに、民間企業等の市場性調査を実施します。

2. 事業化を加速する産学連携支援事業

コーディネーターを全国に配置し、農林水産業の現場や民間の事業化ニーズを収集し、研究課題の設定の際に提供するなど、事業化ニーズに対応した研究開発とその事業化を支援します。

（委託費）
委託先：民間団体等

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究推進課

(03-3502-5530)]

知の集積による産学連携推進事業

- 農林水産・食品産業にイノベーションを起こし、商品化・事業化を促進するため、企業、大学等による「知の集積」を通じた技術革新の仕組みを検討。
- 「知の集積」による産学連携の強化に向けた仕組みの検討や、コーディネーターを活用した「橋渡し」機能の強化を実施。

オランダ・フードバレー



1,500以上の
企業、研究機関等が
集積、連携

フードバレーの構築により、
・自動環境制御型の園芸用
ガラスハウス開発
・トマト等の園芸品種開発
・新たな機能性食品の開発

世界有数の
農産物輸出国へ

我が国においてもイノベーションが必要

知の集積による
産学連携推進事業
(H27年度)

攻めの農林水産業を支える 知の集積調査推進事業【新規】

産学連携の更なる強化に向けた
仕組みを**民間企業・生産者等の関
係者と一体となって調査・検討**

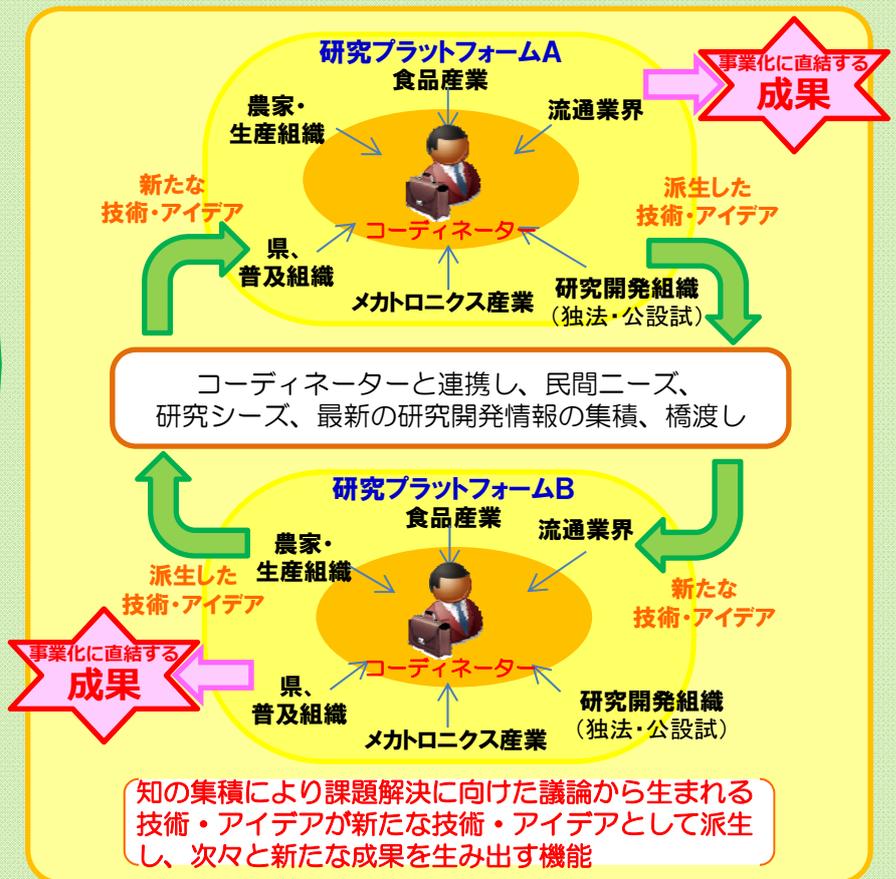
- (1)現状把握・分析
- ・国内外の市場性調査・事例調査
- (2)基本構想の検討
- ・知の集積の場で行うべき研究
テーマ
 - ・効果的な連携調整方法
 - ・知の集積の運営体制 等

事業化を加速する 産学連携支援事業

コーディネーターを全国に配置
し、**事業化ニーズに対応した研究
開発とその事業化を支援。**

新たな産学連携の仕組み

「知の集積」による産学連携の強化に向けた新たな仕組み
(イメージ：調査事業により具体化)



次々に生まれる事業化・商品化を目指した
革新的な研究成果

世界市場を見据えた
日本の食と農の産業競争力強化